

# 事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

R1.12現在

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	「はい」の為の工夫点
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	<input type="radio"/>			定員に対して部屋数は充分あるため、自力での移動が可能か否かで部屋を分けることもある。また、特に感染症対策として、多少の体調不良時にも個室での対応ができる。
	②	職員の配置数は適切であるか	<input type="radio"/>			看護師を増員し処置が行き届くよう、またマンツーマン以上の人数で対応できるように配慮している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			<input type="radio"/>	借家のため玄関前の大規模な整備ができていないことが今後の課題だが、室内の出来る箇所に関しては段差解消のスロープ等に対応している。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	<input type="radio"/>			パートスタッフに関しては時間的に難しかったが、時間調整等により全員で話合う機会を設けるようにした。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	<input type="radio"/>			保護者からの意見を大切に感じているため評価表はできるだけ改善につなげたい。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	<input type="radio"/>			HPで公表中。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			<input type="radio"/>	検討中。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	<input type="radio"/>			事業所内研修として、外部の方に講師を依頼している。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	<input type="radio"/>			支援計画を作成するうえで、アセスメントの重要性は理解している。

適切な支援の提供	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			障害に合わせたアセスメントツールを使用している。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			スタッフ間で話し合っている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○		季節感を取り入れながら気をつけているつもりだが、今後は更に活動に様々な工夫をしていきたい。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			体調や時間の都合をみてできるだけ課題に取り組んでいる。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			体調を考慮し行っている。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			スタッフとの話し合いを行っている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			送迎があるため、当日には話し合いの時間をもてないが、翌日に行っている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			支援記録やケース会議記録等を基に改善している。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			関連機関との連携をとりながら、必要に応じて行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			季節を感じることでできるように散歩や時節ごとに制作物を作成したり、自己選択の意思確認をしながら体調に合わせた活動支援を行っている。

関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	○		児童発達支援管理責任者が参加している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		学校や保護者との引き渡し時に留意事項等を双方で伝えている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○	主治医との連絡は、基本的には保護者に行ってもらっている。その後、通院後等にはケアについての変更事項等を教えてもらっている。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○	児童発達支援事業所には情報提供を依頼したことがあるが、相互理解までには至っていない。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○	現在は行う機会がないが、障害福祉サービス事業所へ情報提供する準備はある。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○	新規の利用に関しては今後連携の必要性がある。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	利用者の体調の問題や保護者の意向、また医療ケアの種類や行う時間が利用者ごとに異なるため時間の都合がつかないこともあり、未だ実現できていない。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○		できる限り参加している。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		日々の支援終了後、その日の様子や留意点等を保護者に伝えている。
㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○	今後検討する。	

保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に行っている。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			保護者からの相談は随時受付ている。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		保護者会等の機会を増やすことを検討する。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情対応者を設けて対応している。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			HPIにて毎月の様子を「アミ通信」としてアップし、「アミ便り」を保護者に出している。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	○			スタッフ、保護者にも個人情報に関する契約を交わしている。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			本人や保護者とコミュニケーションしやすい環境作りを大事にしている。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っているか		○		町内会長や民生委員の方には見学に来てもらった。今後も良好な関係を築きたい。
	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			いつでも見られるところに置いてある。
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			防災訓練を行っている。

非常時等の対応	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			スタッフ研修を行っている。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			やむを得ない身体拘束については保護者からの同意書を得ている。また、身体拘束の箇所や時間等についての必要性を定期的に見直す話し合いを設け、拘束の箇所や時間の記録も残している。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			食事は保護者が用意したものを提供している。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハットについての研修を行っている。